



秋川ライオンズクラブ清掃活動

大悲願寺節分祭

秋川アートストリーム共催

# QUESTION

## 一般質問の答弁内容

### (1) 地域公共交通計画について

Q1：路線バスの維持・確保における現状と課題、利用促進策は？

A：利用者減少による収支悪化が課題であり、路線見直しやデマンド型交通の導入、時刻表の見直し等により利便性向上を図っている。

Q2：五日市の交通空白地域に対する今後の対策は？

A：地域の移動ニーズに応じたデマンド型交通の導入や、既存路線との乗継ぎの利便性向上を検討している。

Q3：観光振興と連携した公共交通の取組は？

A：観光ルートに応じたバスの運行や、観光拠点とのアクセス強化に取り組み、観光と交通の一体的な促進を図っている。

Q4：観光シーズンの檜原街道の渋滞や五日市地区の駐車場不足をどう捉えているか？

A：観光シーズンの混雑を課題と認識しており、駐車場の整備や公共交通への誘導を含めた対策を検討しています。

### (2) 自転車を活用した地域振興策について

Q1：観光振興における自転車の二次交通としての活用について市の考えは？

A：自然や観光資源を生かし、自転車での周遊促進が観光振興につながると考え、環境整備を進めていく方針。

Q2：サイクリングを通じた広域連携についての考えは？

A：周辺市町村と連携したサイクルルート整備やイベント開催などを通じて、広域観光の活性化に取り組みたいと考えている。

### (3) 職員構成と人材確保について

Q：本市職員の年齢構成と管理職不足の現状認識は？

A：40代半ばの職員が少なく、昇任試験受験者

も減少しており、組織運営に課題があると認識している。

Q：人材確保と管理職育成の取組は？

A：45歳までの経験者採用や課長補佐への選考昇任制度などにより、幅広い人材の確保と育成に取り組んでいる。

Q：定年退職者や役職定年職員の活用方針は？

A：過去の経験や知識を活かすため、原則として以前勤務していた部署に配置している。

令和 6年12月定例会議（12月4日）

一般質問

(1) 地域公共交通計画について

(2) 自転車を活用した地域振興策について



令和 7年3月定例会議（3月4日）

一般質問

(1) 駅周辺に設置する自転車等駐車場の管理について

(2) 公共施設の有効活用について

(3) 職員構成について



# PLEASE

地域に関する困ったことやご質問  
ご依頼はこちらから!ご気軽に



スマホでQRを読み取って  
フォームを入力してください!

# COFFEE BREAK

約50年前、五日市駅前で行われていた交通安全パレードには馬が登場することもあり、当時は今よりもどかな雰囲気があったようです。そんな五日市線の開業100周年を記念して、今年「フレア五日市」が7月にオープンします。自然と調和した木のぬくもりを感じるデザインは、かつての五日市の面影を思い起こさせます。地域の方々にとって、心が安らぎ、人と人がつながる交流の場になればと願っています。



昭和49年



令和7年

# CHANGE

## あきる野市が良くなったコト、モノ

- ・市からの転出者より、市への**転入者**が増えています  
令和4年+399名、5年+412名、6年+401名（転入超過数）
- ・武蔵五日市駅前「**フレア五日市**」完工7月オープン  
市民、観光客の交流の場、体験学習や企業研修の拠点として活用
- ・市の公式**LINE**導入 防災・子育て情報など発信予定（秋頃開始）
- ・公共交通の**バス本格導入**、**深沢 / 盆堀タクシー補助**開始
- ・**ふるさと納税**による市への寄付額が1年で**5倍**の約1億円に
- ・小中学校給食費の**完全無償化**を開始
- ・がん患者への**ウィッグ助成**を開始

### [国松まさきの3大活動指針]

- 1 過疎化地域の課題解決と活性化
- 2 働き盛り世代の移住、定住促進
- 3 あきる野市を学習と観光の街へ

### 目指すべき地域公共交通とは!?

公共交通は単なる移動手段ではなく、人々が自分の能力を発揮しながら安心して暮らせる「**幸福なまちづくり**」を支える重要な基盤です。特に高齢化や免許返納により移動手段が限られる中で、誰もが自らの意思で移動できる環境は生活の質や地域の活力に直結します。歩いて暮らせる街や、快適な乗換拠点としてのモビリティハブ、AIオンデマンド交通などの新しい技術も含め、地域に合った仕組みづくりと、行政・市民・民間の連携により持続可能な公共交通を実現します。



# GUEST TALK

## ゲストによるあきる野の好きなおとこ



友永 詔三氏  
(ともなが あきみつ)  
造形作家

芸術家・友永詔三氏が選んだ「五日市」という暮らしと創作の場  
あきる野市五日市地区には、自然と歴史、そして人の温かさが調和する、他にはない魅力があります。そんな五日市を、創作の拠点に選んだ芸術家があります。造形作家として国内外に知られる友永詔三氏です。友永氏は長年にわたり、繊細で情感あふれる造形作品を手がけてきました。プリンプリン作品の人形美術を手がけたことでも知られる氏は、静かな環境と豊かな自然に囲まれた場所を求め、五日市に移住。以来、この地で創作を続けています。友永氏が五日市を選んだ理由については、「四万十川の流れるふるさと高知と似た素晴らしい環境にひかれて」とのこと。五日市は、都心から電車でわずか1時間ほどの距離にありながら、深い緑と清らかな溪谷、古い街並みと職人の文化が息づいています。訪れた人の多くが「時間の流れが違う」と感じるのは、この地域が持つ独自の空気のおかげかもしれません。